

## THE ASCENT

## (1.1 概要)

ある日、主人公ジャレドは、ソーミル山脈を越え雪道を進んでいった。歩きながら、ジャレドはどこか西の方でホバリングするヘリコプターの音を聞いた。それは、1週間してもある飛行機が発見されていないことを意味していた。捜索隊は、ブライソン市からテネシー州の境界地点まではるばる捜索を進めていた（もしくは、その話を学校で聞いただけで、事実ではないかもしれないが）。



深い森へと進んでいくとき、彼は行方不明の飛行機や、クリスマスプレゼントとしてお願いしていたマウンテンバイクの事なんて考えていなかった。また、両親の事も考えてはいなかった。代わりに（片思いの）ガールフレンドのリンディーの事を考えていた。彼は、彼女が自分の横を歩いていると妄想しながら歩いたのだ。途中、ポケットナイフを取り出し、クマと戦うふりをし、リンディーを守るふりをした。

尾根を半分ほど降りたところで、彼のナイフは昼間の太陽の光を浴びて光輝いた。すると、ナイフの光に答えるかのように、下のほうから別の光が差した。近づいてみると、折れ曲がった銀のプロペラ、白い垂直尾翼やばらばらになった翼の一部が見えた。そのまま向きをかせ、見なかったことにして帰ろうとも考えたが、ジャレドは、クマと戦った自分は墜落した飛行機に近づくのを恐れてはならないと自らに言い聞かせ、尾根を降りて近づいた。彼はポケットナイフのブレードで乗客用ドアにくさびを入れ、ドアを開けて中へと入った。

乗客の女性は、馬の金靴のような形で前にかがんで、パセリシートに座っていた。彼女の茶色く長い髪はつららのように凍りついてしまっていた。指には指輪をはめていた。機内には男性もいて、彼は操縦室の窓の方へかみこんでいて、顔はガラスにぶち当たっていた。ジャレドは後部座席によじ登り、ドアを閉めた。とても寒く、死体の腐敗臭もほとんどしなかった。機内は非常に静かだった。ここは尾根の狭間であり、風もなかった。とっても居心地がよかった。（この飛行機は4人乗り程度の**小型機**ですね。一応参考までに・・・）

しばらくして、時計のかすかな音が男性の方から聞こえた。前部座席へ戻り、男性のワイシャツの袖をめくると、腕時計があった。もう夕方4時になろうとしていた。気が付けば、2時間も後部座席に座っていたのだ。彼には数分の出来事のように思えた。暗くなると、彼の足跡も分からなくなるので、帰ることにした。後部座席を出るとき、機内の弱い光の中でも輝く女性の指輪を見て、それを持って帰ることにした。帰り、ジャレドは足跡の方向を分からなくして、自分を追うオオカミを惑わす（注：彼の妄想）ために、行きにつけた足跡を踏みつけながら帰った。

家に帰ると、青い小型トラックが庭に止まっている事、フロントルームの電気がついてる事に気づいた。この時、彼は、今日が土曜日で、お父さんの給料日であることを思い出した。ドアを開けると、テーブルの上には麻薬吸引用の赤いガラスのパイプが、そしてその隣には空になった麻薬の小さな袋があった。お父さんは暖炉の前で、焚き付けを配置し、その焚き付けの中央に空き缶を、そして3つの赤と白の浮きを丸太の上に乗せていた。お母さんはソファに座り、ひざには1フットの長さにカットされたアルミホイルを広げていた。そしてお母さんはジャレドに、「これが私たちのクリスマスツリーになるのよ！」と微笑みながら告げた。そのあとでお母さんはお父さんの隣にひざまずき、丸太と焚き付けの周りをアルミホイルで優雅に覆った。

ジャレドはキッチンへ向かい、シリアルを食べた後、自分の寝室へ行き、ポケットからあの指輪を取り出した。指輪をランプの下でゆっくりと動かしながら、様々な色が溶け込む様子を見ていた。「クリスマス休暇が終わった後、最初に晴れた日に、校庭でリンディーに指輪を渡そう。きっと彼女は自分のことを好きになる！」。ジャレドはそう本気で考えていた。

そんな時、お父さんが部屋に入ってきた。ドアが開くまで、気づかなかった。

「お母さんがツリーの点火を手伝ってほしいって言ってたよ」と告げに来たのだ。その時、ジャレドは指輪を床に落としてしまった。それを拾って、手の中に隠した。お父さんはそれがなんであるかを尋ねるので、彼はしぶしぶお父さんに見せた。ダイヤモンドは偽物で、リングは金ではないか？とお父さんは言い、お母さんと呼び出した。ジャレドは2人に森の中で見つけたと告げる。お母さんはダイヤモンドも本物ではないかという。「それ、返してくれる？」とジャレドは言うが、「本物かどうか判明するまでは返せないよ」とお父さんに告げられる。お父さんはそのまま、指輪を鑑定してもらいに、宝石商の元へ行ってしまった。数分で帰ってくるとお父さんは告げたが、なかなか帰ってこない。ジャレドはお父さんが帰ってくるまで起きていようと考えていたが、深夜になってしまった。数分だけ寝ようと心に決めて寝た。すっかり寝てしまったようで、目が覚めると外は明るかった。

ジャレドがフロントルームへ行くと、両親は寝ていないことに気が付いた。テーブルの上には、ガラスのパイプと、4袋の麻薬の小袋が置かれていた。2つはまだ中身があった。袋が2つ以上あるなんて、今までに例がなかった。

「お前の好きなシリアル買ってきたぞ！」とお父さんは言った。ジャレドはとにかく指輪が気に入り、「指輪はどこ？」と尋ねる。お父さんは「保安官が持って行ったよ」と嘘をついた。本当は指輪を売ったのにも関わらず。

お父さんが買ってきたのはシリアルと麻薬ではなかった。玄関のところに、マウンテンバイクが立てかけられていた。中古ではあるが、タイヤもたわんでいないし、ハンドルもまっすぐだった。

その後、ジャレドは朝食をとるように言われ、シリアルを食べた。その間、両親は1つしかないパイプを回しながら、麻薬を吸っていた。

彼は飛行機のところまで戻りたかった。しかし、シリアルを食べ終わって片づけるとほぼ同時に、お父さんは「本物のクリスマスツリーを見つけに行こう」といった。3人はコートを着て家を出て、尾根を登った。尾根の頂上で、お父さんはジャレドが選んだフレーザーモミの木を、錆びたチェーンソーで切り倒し、引きずって帰った。家に帰ると、暖炉の角にその木を立てかけておき、両親は麻薬を吸ったのち、お父さんはその場しのぎのツリースタンドを、お母さんは雑誌を使ってたくさんの星形の飾りを作り始めた。

ジャレドは、「少し外に行ってくるよ」と告げるが、お母さんから星の飾りを壁に貼るのを手伝うよう言われ、その作業が終わると外は暗くなってしまったので、結局その日は飛行機のところへ行くのを断念した。

月曜日の朝、昨日あった麻薬の小袋はすべて空っぽになっていた。そして、両親は病気だった。お母さんはお父さんに、「ウェスライさん（麻薬売人）のところに行かなくちゃ」というが、「もう（麻薬を買う）お金がないんだ」とお父さんは言う。ジャレドは買ってもらったマウンテンバイクを早速売ることになるんじゃないかなと思って、お父さんの目の動きをみるが、お父さんはマウンテンバイクを見ても売る気はなさそうであった。

「火をつけてくれない？」とお母さんに言われたジャレドは、ポーチに行き、腕いっぱい焚き付けを集め、炉の薪のせ台に丸太を置き、新聞紙を使って点火した。火がしっかりつくのを見て、しばらくその火を見た後で両親の方を向き、マウンテンバイクを町に持って行って売ることを提案した。しかし、お母さんはその提案を拒否した。

朝が過ぎても、一向に病状は快方に向かわなかった。お昼になると、ジャレドはコートを着て、出かける準備をした。「どこ行くの？」とお母さんに問われると、「もっと薪を取ってくる」と嘘をついた。

ジャレドは納屋に入り、ほこりをかぶった、ある長さのロープを納屋の背面の壁から取り、腰に巻いて結んだ。納

屋を出て、前回自分が付けた足跡をたどって西へと向かっていった。雪は激しくなった。彼はアラスカの救出作戦に参加しているふりをし、「午後までにはもっと雪が強くなるかもしれない。だから君を連れて行くのは危険すぎる。」と頭の中でリンディーに告げた。

彼は飛行機のところまでたどり着き、頭の中で、機内に残された2人に供給する食料や薬といった荷物をそりから下ろした。彼は2人に、「君たちの傷はひどすぎて、とても自分と一緒に歩いて戻ることはできない。もっと救助を呼んでくるからね」と告げ、男性の手首から腕時計を取り外し、自分の手のひらにおいた。「私にはあなたの方位磁針が必要なんだ。」と言って、時計をしまい、飛行機を出て家へと向かった。数分おきに、ジャレドは腕時計を取りだし、時計を東に向けた（方位磁針として使っているふりをしていた）。

家につくと、窓からマウンテンマイクと、ソファの上で一緒に体を丸めている両親の姿が見えた。少しの間、ただその姿を見つめていた。家に入ると、火は消えていて、息が白く見えるほど部屋は冷えていた。お母さんには、「どこに行くか告げずにこんなに長い間出ていくべきじゃないよ」とお母さんに言われた。そこで、ジャレドはポケットから例の腕時計を出した。お父さんはじろじろ見て、ロレックスであることに気付いた。「きっと、最低でも数百ドルはするぞ」というと、お母さんも起き上がり、「私も一緒に（換金しに）行く！クスリを買ったらすぐに吸いたいの！！」と言い、更にジャレドの方を振り向いて言った。「ちょっと家で待っててね！ハンバーガーとコーラ、そしてあのシリアルをもっと買ってきてあげるから」と。そして2人は出て行った。トラックが見えなくなると、ジャレドはスクールバックを空にして、納屋に行き、レンチやハンマーをバックに詰めた。もっと多くのものを運んでいる、そのようにジャレドは頭の中で思った。

飛行機につくと、ドアは開けずに道具を取りだし、飛行機を修理する真似をしだした。それが終わると、ハンマーを地面に落とし、乗客用ドアを開けて中へと入った。

「修理しました！出発します！」と彼は男性（の死体）に告げ、後部座席に座った。修理する真似をしたり、歩き回ったりで体は熱くなっていたが、すぐに冷たくなった。しばらくして、彼は震え始めたが、更に時がたつと、寒さを感じなくなった。（解釈によっては**この時点で死亡したとみなせる**）彼はサイドウィンドーから外を眺めた。そして、前だけでなく、下も雪で真っ白になっていることに気付いた。彼は、高度が高いから雲に包まれたんだと考えた。一面真っ白でも、まだ下を見続けた。雪の中を家族全員（解釈によっては、**両親だけ？**）が向かっている**場所**へと進むあの青いトラックが探せるくらい雲が晴れるのを待つ。（場所＝両親の麻薬での死とジャレドの凍死）

## (1.2 語句)

英語	日本語
creek(279-15)	小川
track(279-17)	足跡
trail(279-20)	コース / 登山道
slant(279-26)	傾く
make believe(280-5)	～のふりをする
slash at(280-14)	～を無茶苦茶に切りつける
make it(280-27)	たどり着く
snap off(280-34)	ポキッと折る
bloodstain(280-37)	血痕

snug / cozy (281-9)	居心地の良い
lean forward(281-11)	身を乗り出す
step into(281-21)	踏みつける
pickup(281-25)	小型トラック
meticulously(281-29)	非常に注意深く
quiver(281-37)	震える
drape(282-1)	優雅に覆う
merge(282-9)	溶け込む
for real(282-12)	本気で
authenticity(282-25)	本物であること
insure(283-10)	～に保険を掛ける
wither(283-19)	しぼむ
hearth(283-29)	暖炉
ragged star(283-31)	ぎざぎざの星
leprechaun(283-38)	小妖精
sheriff(284-1)	保安官
prop(284-7)	立てかける
saw(284-26)	チェーンソー
shed(284-36)	納屋
makeshift(284-37)	その場しのぎの
stingy(285-7)	ねばついた
recede(285-8)	後退する
skull(285-9)	頭
residue(285-12)	残り物
bicep(285-13)	上腕
armload(285-26)	腕いっぱい
wedge(285-28)	押し込む
take hold(285-29)	しっかりとつく
knot(286-3)	結ぶ
granite-looking(286-18)	御影石のような
flurry(286-29)	にわか雪
huddle(286-23)	体を丸める
I bet(286-38)	きっと…だ
chip(287-21)	はがし取る
envelop(287-32)	包む

<語句:練習問題>解答は(1.4)を参照

**Fill in the blanks. (Use the words below. If necessary, you can change the forms of words.)**

- (1 : 279-17) If it had still been snowing and his ( ) were being covered up, he'd have turned back.  
(2 : 279-19) Children wandered off from family picnics, hikers strayed off ( ).  
(3 : 279-26) The land ( ) downward.  
(4 : 280-05) He took out the pocketknife and raised it, ( )( ) that the pocketknife was a hunting knife.  
(5 : 280-27) He finally ( )( ) to the plane.  
(6 : 281-09) The plane was ( ) and ( ).  
(7 : 281-29) His father ( ) arranged and rearranged kindling around a log.  
(8 : 281-37) His mother's smile ( ).  
(9 : 282-09) The stone's different colors ( ).  
(10:282-12) Lyndee would finally like him, and it would be ( )( ).  
(11:283-19) The foil and cans ( ).  
(12:284-07) A mountain bike was ( ) against the wall.  
(13:285-08) His father looked little better, his blue eyes ( ) deep into his skull.  
(14:285-12) She sucked deeply for what ( ) might remain.  
(15:286-38) I ( ) a couple of hundred at least!

*trail make with snug meticulously merge wither recede bet track slant make cozy quiver for prop residue believe at real it*

**(1.3 訳出しにくい箇所)**

- ①(283-13) It's just one that's chopped up, is all.

それはただ細切れになっているだけだ。それだけじゃないか。

**コメント** : 最後の is all は that's all のことです。文としては不成立です。

- ②(285-12) sucked deeply for what residue might remain.

もしかしたら残っていると思われる粉を求めて深く(麻薬を)吸った。

**コメント** : residue と remain の意味が似ているため、直訳しようとする苦しくなる。この後の小テスト解答では、residue の意味を表に出すために、かなり苦しい訳になってます。

- ③(285-33) Your momma and me just did too much partying yesterday is all.

お母さんとお父さんで昨日、ちょっと大騒ぎしすぎちゃっただけだよ。

**コメント** : ①と同じ。不成立な文章。

**(1.4 小テスト解答)**

**I Fill in the blanks.**

1. Father was (*meticulously*) arranging the cans.  
父は非常に注意深く缶を配置していた。
2. He (*made / believe*) that he had a knife.

彼はナイフを持っているふりをした。

3. His eyes will (*recede*) deep into his skull.

彼の眼は、頭の奥深くにまで後退するだろう。

4. The bike was (*propped*) against the wall.

その自転車は壁に立てかけられていた。

5. The plane was (*snug*) and cozy.

その飛行機は居心地がよかった。

6. The flowers (*withered*).

その花はしぼんだ。

## II 下線部の意味を日本語で書きなさい。

1. The stone's different colors merged.

その石の様々な色が溶け込んだ。

2. She sucked for what residue might remain.

彼女は、おそらく残っているであろう残り物を求めて吸った。

3. The land slanted downward.

その土地は下方に傾いていた。

4. He couldn't see much when he finally made it to the plane.

彼は、ついに飛行機にたどり着いたとき、あまりよく見る事が出来なかった。

## III Answer in English.

1. What kind of people are Jared's parents?

They are addicted to drugs.

2. What did Jared take from the dead man in the plane?

He took a Rolex from the dead man.

### <語句：練習問題>について

基本的に、該当箇所をチェックすれば答えが一発でわかると思います。語形の変化に注意！ただし、

(3)(8)(9)(11)は、問題文だけで過去と断定できないので、現在形でもよい。

(6)は、順序は逆でもよい。

## (2.1 概要)

1. それ（駐車違反についての犯罪小説を書くこと）は、チャレンジ、そして西オーストラリアで開催された、ライターズフェスティバルにおけるばかげた会話の予期せぬ結果として始まったんだ！ライターズフェスティバルのパネルディスカッションは、1人の批評家と、2人の犯罪小説作家によって行われた。聴衆は、大半は女性で、よく犯罪の陪審員となるような人たちばかりだった。彼らは、高度な教育を受け、高い教養をもち、



想像力に富んだ人たちであった。また、彼らはミステリー小説の読者であり、殺人を起こしたことなんてないし、殺人を犯した人と交わったこともないが、彼ら自身決して関与しないような行動の、残酷的なシーンの詳細に魅了された人たちなのだ。

このパネルディスカッションでは、犯罪小説のリアリズムについて議論している。批評家は、「殺人」について書かれた犯罪小説を、ある程度読んできた人であり、「現代のミステリー小説は、現実的で生々しい残酷シーンであふれかえっている。」と、自分の考えを表明した。そして、「詐欺や窃盗、強奪、脱税など、殺人以外にもたくさん犯罪はある。どうしてもっとありふれた罪について書かないのか。殺人っていうのはめったに起こらないんだぞ！」と述べた。

一人の作家は聴衆の方を向いてにやにやと笑い、ジェスチャーで批評家の事をほのめかしながら、「彼は気持ちが弱くて（残酷な殺人の描写に）耐えられないんだよ」といった。何の困難さも伴わず残酷なシーンに耐えられる聴衆たちは笑った。そこで批評家は、「ただど本気なんだよ。もっと日常的に発生する、低レベルな罪について扱うのはどうだろうか？駐車違反のような。」という、批評家自身も含め、皆がどっと笑った。そんな中、パースからやってきた成功している犯罪小説作家、ジョージハリスは、批評家を見つめた。最初はジョージも笑っていたが、今は考え込んでいるようだ。

2. ジョージはフレマントルで絞り染めTシャツ店を経営するガールフレンドのフリッツィーと、小さなバンガローを共有していた。彼らは5年間一緒に生活してきた。ジョージはサーフィン好きで、彼らの住むコッテスロエ海岸はインド洋の波が直接激しく打ち付ける場所であり、サーフィンをするにはうってつけの場所だった。彼はまだ、サーフィンをしていたが、彼はいつも、水の中の彼の真下のところに何があるかと考えてずっと悩んでいた。その不安は、抑えられてはいるが、確実に水面下にあるものだった。実際、8か月前には彼の遠い知り合いが巨大なホオジロザメに殺された。海岸から近距離のところであった。そのことは、彼に「オーストラリアでのサーフィンは危険を伴う」ということを痛感させただけでなく、次の彼の小説のアイデアをも与えたのだ。そのアイデアとは、

サーファーの間で、恋人かバイクに関する事で対立があり、一人のサーファーがナイフのエッジにサメの歯型に似せたギザギザを作り、それを海中に沈める。こうすることで、もう一人のサーファーがナイフのせいで死んでも、検死でサメの攻撃による死亡と判断される

こういうアイデアだった。

彼はこの話を書き始めたが、気が乗らず途中で諦めようとした。というのは、彼は依然、そんなに乗り気ではなかった本をやり通したとき、うまくいかずに後々捨てられた話題に苦悶して8か月間費やしてしまったがあり、今回は同じ過ちを繰り返すまいと考えたからである。そして彼は、ライターズフェスティバルで聞いた駐車違反に関する小

説について考え始めた。こんな小説を書くなんて、驚くほどばかげた考えだが、多くの本が出版されて市場がいっぱいになってきたこのジャンルにおいて、あとを残すことになるだろう。人々は違うものを求めている。自分が書こうとしている小説は、そこら辺の犯罪小説に対して、まったく逆のものがある。故に人々に強い印象を与えるだろう。そして、地元西オーストラリアの設定にして、ローカル色を出そう。彼はそう考えたのだった。

彼はアイデアを温め、話の筋を想像し始めた。そして、駐車場を管理する人の世界をしっかりとらえなくてはならないと考えた。つまり、地元警察の交通課へと赴き、数日1人の管理人と一緒に回る許可を出してもらわなくてはならないだろうと。しかし、許可を取るのとは全然難しくないはずだ。というのは、地元パース警察はいつも彼に協力してくれ、彼はそのお返しに著書の中で、パース警察を喜ばせるような描写をしているからだ。

彼は、フリッツィーにこの小説について話した。彼女は、本の出版前に、内容に関する秘密を打ち明けて相談できる唯一の相手だった。彼女もジョージのようにサーファーであり、時々サーフボードに乗りながら、彼の書いている本について話したものだ。

### 3. 彼が管理人（警察）について回るのは、農家が町に来て、違法駐車をする金曜日となった。

「彼らは町にいてるってことを忘れてんだ！彼らはまだ森の中にでもいると思っていて、どこにでも駐車OKだと思っているんだよ。彼らを確実に懲らしめてやるんだ」と警察は言った。

ジョージはこの悪意に満ちた発言をノートにメモした。農家は同情に値する。干ばつやペスト、低い農産物の価格などに苦闘しているのだ。しかし、彼は何も言わないでおいた。彼は警官を見ると、かなり挫折したように見える、小柄な男性だった。明らかに、この駐車違反取り締まりは野心家のやる仕事ではないのだ。野心家たちは殺人などを担当するだろう。

2人は午前中、ごみごみした通りを行ったり来たりしながら、数件の違反を発見した。そのたび、それぞれについて詳しく説明してもらった。側道を歩いていると、細いアクセスレーンで、駐車禁止の標識があるところに、1台の車が停められていた。警官は「ずうずうしい奴だ」と言い、近づいて行った。車中では、2人の男が言い争っているようだった。警官が運転席側の、半分あけられた窓をスマートにたたき、「駐車違反だってことに気付いているか？運転免許証を見せて。」という、運転手は何も言わず、エンジンをかけ、急発進した。ジョージは驚き、後ろによりめいた。警官は、自分の無線を探っていた。

その時だった。車の下に、体が見えた。その人は、腕を伸ばし、おぞましい、黒っぽい赤のシミがTシャツの前面についていた。これはまさに、犯罪小説家が生々しく描写するのが好きな体である。目は開いているが、何も見てはいない。指はギュッと握っていた。髪はくしゃくしゃだった。足は変な角度だった。などなど。

### 4. 警官はその車の登録番号を控えていたことから、すぐに犯人は捕まった。出てきた運転手とその仲間は、パースの悪の世界の良く知られたメンバーであった。彼らの一人は、ジョージがサーフィンサークルで知っていてかつフリッツィーに手助けしたことのある人の兄弟だった。パースというのはこんな町なんだ。フレンドリーな街で、みんなが親密なんだ。

ジョージは、殺人の裁判で、目撃者として呼ばれた。彼の言えることは多くはなかった。しかし、それでも、サーフィン仲間（この人はジョージの元へやってきて、証拠を与えぬよう頼んできた。）を困らせるには十分なものだった。しかし、ジョージは証言することは市民の義務だと考え、証言する旨を表明した。するとサーフィン仲間は「裏切ったら不幸なことが襲いかかるぞ！覚えとけ！！」と圧力をかけてきた。ジョージは脅しにあったことを警察に報告しようと思っていたが、証人がなく、脅しが起きたことを証明するのが難しいのでやめた。彼はこの問題全てにつ



いてよく知っていた。というのは、彼はかつて小説で似たような話を扱ったことがあったからだ。真実が徐々に小説をまねていく様子は、奇妙だと彼は思った。

フリッツィーは不愉快だった。彼女は彼に、証拠を与えない、もしくはちょっとぼかすよう説得した。しかし、彼はそれを拒否し、真実をはっきり述べることにした。

5. 裁判の2週間前、彼はサーフィンをしに行った。彼のいちばん好きな、早朝だった。ビーチの周りにはほとんどだれもいなかった。なんて美しいだろう、と彼は思った。空や海、砂浜はとても広い。なんてこの国は美しいだろう！

彼は漕いで進み、いくつかの波に乗った。いくらか向こうに別のサーファーがいた。そして、どこかに行ってしまったように思われた。彼は水中を見ると、水の中に何かが見える。彼の心はよろめいた。彼はじっと見た。影や、海藻の葉と何か別のものを見間違えるのは簡単だ（良くあることだ）。（悪い）想像を膨らませすぎてはいけない。彼は水の中を調べた。下から金属が光っているように思われた。そんなはずはない！と彼は思った。そうこうしているうちに、彼はボードから海に落ちてしまった。

そして、彼が海の中に落ちた時、彼はこう思った。「人生はこんなはずじゃなかった。よりによって駐車違反がこんな結果を生むなんて馬鹿げている！」と。こんなことは、ばかげているうえ、起こりそうもないことだ。しかし今となっては唯、水と後悔しかない。（①実際に圧力をかけてきたサーフィン仲間が仕掛けたナイフによって死亡した。②偶然サメの歯が見えていたのであり、サメに食べられて死亡した。③すべて見間違えで、余計な心配だった。こんな風に想像を膨らませた自分がばかばかしく思った。 という3つの解釈があるようです。でも、話の筋からいうと、やっぱり①が無難な解釈じゃないかと思います。）

## (2.2 語句)

英語	日本語
panel(94-17)	陪審員
literate(94-19)	教養がある 読み書きできる
gory(94-21)	残酷な 血まみれの
surfeit(94-32)	飽満
compulsory(94-36)	義務的な 必修の
autopsy(94-36)	解剖
fraud(95-5)	詐欺
theft(95-5)	窃盗
mundane(95-9)	ありふれた 日常的な
offence(95-9)	違反 罪
stomach(95-12)	気持ち
tiny(95-38)	ごく小さい
nag(96-1)	絶えず悩ませる
a stone's throw of(96-4)	近距離
bring...home to somebody(96-5)	痛感させる

dispose of(96-6)	始末する
reflect(96-20)	思案する 考え込む
in jest(96-30)	冗談で
procedural(96-34)	手続きに焦点を置いた犯罪小説
homicide(96-35)	殺人
devoid of(96-39)	し～が全くない
mayhem(97-1)	暴力 騒乱
flattering(97-17)	おだてる 実物以上に見える
outsmart(97-18)	～の裏をかく
confide in(97-21)	打ち明けて相談する
sort out(97-35)	やっつける 片づける
drought(97-38)	干ばつ
tax disc(98-8)	自動車税支払済証
blatant(98-23)	露骨な ずうずうしい
reel(98-36)	よろめく
dob in(99-26)	～を裏切る
intimidation(99-28)	脅迫
emulate(99-32)	まねる
virtually(100-3)	ほとんど
peer(100-13)	じっと見つめる
frond(100-14)	葉

＜語句：練習問題＞解答は(2.4)を参照

Fill in the blanks. (Use the words below. If necessary, you can change the forms of words.)

- (1 : 094-17) An audience was made up of the sort of people who frequent the crime ( ).
- (2 : 094-19) They were highly ( ).
- (3 : 094-36) Look at the ( ) autopsy.
- (4 : 095-05/096-35) There's ( ) and theft and extortion, except for ( ).
- (5 : 095-09) Why not write about more ( ) offences?
- (6 : 096-01) The thought what was in the water beneath him was always in his mind, a ( ) fear.
- (7 : 096-05) It had not only ( ) it ( ) to him.
- (8 : 096-09) One surfer would plan to ( )( ) another.
- (9 : 096-20) George ( ) that it was not a comfortable writing.
- (10:096-30) The suggestion had been made ( ) jest.
- (11:096-39) It would be gentle stuff, devoid ( ) violence.
- (12:097-21) She was the only person ( ) whom he ( ) about his book.
- (13:098-36) George ( ) back in surprise.

(14:099-28) He decided to report this unsubtle attempt at ( ).

(15:100-03) There was ( ) nobody around.

*panel compulsory fraud home nag dispose in of confide reel virtually intimidation literate mundane bring in at homicide reflect with of*

### Translate into English.

(16) 私たちは確実に農民たちをやっつけるんだ！ (sort を用いる)

(17) ひどい干ばつと闘う農民たちは、同情に値する。

### (2.3 訳出しにくい箇所)

(100-18) how life was not like this, that it was absurd that parking of all things should have this result.

人生はこんなはずじゃなかった。よりによって駐車がこんな結果を生むとは馬鹿げている。

コメント：このまえに、he thought とあるので、構造としては、

thought { how life was not like this  
that it was absurd that parking of all things should have this result.

である。parking of all things の訳に悩むが、「あらゆるものの駐車」という訳し方では解釈がずれてしまう。parking (of all things) should have this result という構造だととらえて、of all things を副詞的に、「よりによって」とするのが自然。ここでの should は「感情の should」で、「～なんて」ぐらいの意味合いを持つ。

### (2.4 小テスト解答)

#### I Fill in the blanks.

1. It was an attempt at (*intimidation*).

それは、脅迫しようとする企てであった。

2. He planned to (*dispose / of*) a surfer.

彼は、サーファーを始末しようと計画した。

3. Look at the (*compulsory*) autopsy scenes.

義務的な解剖シーンを見てみなさい。

4. There's (*fraud*) and theft.

詐欺と窃盗があるじゃないか。

5. She was the only person (*in*) whom he (*confided*).

彼女は、彼が秘密を打ち明けて相談する唯一の人だった。

6. I (*sort*) them (*out*) for sure.

私は彼らを確実に片づけて（やっつけて）やるんだ。

#### II 下線部の意味を日本語で書きなさい。

1. There was virtually nobody around.

ほとんどだれも周りにはいなかった。

2. George reflected it was not comfortable.

ジョージは、それは心地よいものではないなと思案した。

3. Why not write about more mundane offences?

どうしてもっとありふれた違反について書かないの？

4. It brought it home to him that surfing was dangerous.

それは、サーフィンは危険だと彼に痛感させた。

### III Answer in English.

1. Which country is the story(“No Place to Park”) set in?

Australia.

2. How are the truth and fiction related in the story?

Truth seems to emulate fiction.

<語句：練習問題>について

(9)(13)は問題文では過去形と断定できないため、現在形でも可

(4)は、fraud / homicide

その他は、本文の該当箇所を見れば答えが分かる。

### 英訳問題解答例

(16) We sort farmers out for sure.

(17) Farmers deserve sympathy, who struggle against severe drought.

## (3.1 概要)

ベビーモニターから聞こえた泣き声は、カレンの想像とは違うものだった。

5ヵ月間夜な夜な、彼女はベビーモニター(写真のようなもの。日本でも急速に普及が進んでいるらしい。Amazonでは4980円から!!)を抱えて、自分の赤ちゃんが泣くのを心待ちにしていた。しかし、実際の泣き声は、かすかなものであり、その泣き声の存在は、ベビーモニターが生み出すかすかな音によってというよりはむしろ、ベビーモニターのライトがちかちかすること



によって確かにされた。彼女はとても怖くなり、心ならずも震え、腕の鳥肌を手でさすっていた。2回目の泣き声は、強さを増し、また、絞殺された甲高い泣き声で、短くぶつぶつと切れたものだった。

カレンは階段のところへぎこちなく進んでいき、階上にある子供部屋のドアを見つめた。そして、階段を登ろうと考えた。手すりをしっかり握りながら登っていくが、彼女の足には力が入らず、そしてよろめいた。

私が仕事から帰宅すると、カレンが階段の一段目のところに座っているのを見つけた。カレンの顔は疲れ果て、また目には涙があふれていた。

「どうしたのか?」と私が尋ねると、彼女はベビーモニターで赤ちゃんの泣き声がしたから確かめてきてほしいという。そして、多分その泣き声の主は自分の子供のマイケルであると。

私は階段を上がり、子供部屋のドアを開け、明かりをつけると、部屋は静まり返っていた。テディーベアーがドレッサーから落ち、うつ伏せの状態ですべて落ちていた。

「大丈夫だった?」とカレンは尋ねるので、ドアを閉めながら「大丈夫」といった。彼女は疑わしそうな目で、「私の事、信じてないでしょ!私は本当に泣き声を聞いたんだから!どうしてマイケルはあんなに泣いたんだろう?」と言った。私は彼女を見たが、適切な言葉が浮かばなかった。

——(カレンさんは、精神異常の状態にあります。そのことが分かっていると、しばらく読みづらいと思う)

一週間後、彼女は、「本当に泣き声が聞こえたんだから!あなたが私を信じていないのはわかるけど、ほんとに子供の声が聞こえたのよ。マイケルではないと思うけど・・・。」といった。すかさず私は、「マイケルではないのは分かっているよ。」と告げる。「どこから聞こえたんだろう?」と彼女は訴えるように私の事を見ながらいうので、私はベビーモニターの箱を探り出し、ヘルプセンターの番号に電話をかけ、解決することにした。

「私たちの家では、あなたの会社のベビーモニターを使用しているのですが、妻が赤ちゃんの泣き声が聞こえたというんです。」とヘルプセンターの女性に電話で伝え、と、「それがベビーモニターの役割なんです・・・。」と切り返された。確かにその通りだと気づき、「でもその泣き声がうちの子の泣き声じゃないんです・・・。」と付け加えた。すると、周波数が同じベビーモニターを使用している人が近所にいれば、その家の赤ちゃんの泣き声が聞こえてしまったのだらうという返答がなされた。

さらに一週間後、私が帰宅すると、彼女はすすり泣いていた。「彼が一晩中泣いていたの、マイケルだわ!彼が私を必要としているの!」と彼女は言う。私が何か言おうと口を開けたとき、ベビーモニターが静電気でぱちぱちと音を立てた。そして、ライトがその音を示すように短い間点灯し、そして消えた。

しかしその後、泣き声が始まると、いよいよ(私も)疑いようがなかった。カレンは始め、私に対して立証できたことに得意になっていたが、その後泣きはじめ、「(泣き声を)止めて!」といった。

その後私は、家の近くの道をカーブに沿って歩きながら、一軒一軒家の前で止まり、赤ちゃんの泣き声が聞こえないか耳を澄ました。そして私は、最後から2番目の家が、赤ちゃんが泣いていた家だと信じた。私はドアベルを鳴らすが、その家の人は出てきてはくれなかった。家の中で、ボタンとドアの閉まる音が聞こえた数秒後、また泣き声が聞こえた。

しかし、その泣き声は別の方向からであった。家に戻ると、カレンは家の外に立っていた。そして、「赤ちゃんが殺される声を聞いちゃったの……。赤ちゃんが泣いて……。それからピシッと鞭で打つ音が聞こえて……。そして泣き声が止まったの。(赤ちゃんの居場所をつかめなかった)あなたが殺させたのよ！(つまり、カレンは「私」がしっかり見つけていれば、赤ちゃんを救えたと考えている)」といい、私を平手打ちした。

---

警察がうちにやってきた。デブリンという警官だった。

「その泣き声の主はあなたの子供ではないんですか？」とデブリンは尋ねた。「いいえ、違います」とカレンが告げると、デブリンは部屋を見渡し、「あなたの方の子供はどこですか？」と尋ねた。「彼は、マイケルっていうのよ」とカレンが答えると、「その子を見せて」とデブリンは言う。しかし、「ダメ」とカレンは返答した。私は、「お見せできないんですよ……。実は、私たちには子供がいないんです。」と本当のことを告げた。

---

デブリンと私は、赤ちゃんの泣き声が聞こえた家へと歩いて行った。しばらくして、デブリンは、振り返った。「何か？」と私が訊くと、「(本当にその家に赤ちゃんがいるか)確かめましたか？」とデブリンは言った。

彼は、カレンが聞こえないのを確かめる(この後の話は、カレンには聞かれたくないから)のをためらっていた。「私はあなたの奥さんの言葉で他の人の家をチェックするなんてできません。別に軽蔑しているわけではないんですが、奥さんには助けが必要なんじゃないんでしょうか？」。そうデブリンは語った。「彼女は必要な助けを得ていますよ！」と私がムキになっていうと、「(奥さんの様子を見る限り、あなたがしている助けは)うまくいっていませんよ。奥さんに何があったんですか」と言われた。

そこで私は、マイケルが生まれた時に死んでしまったこと、カレンの治療について、どのようにしてカレンがまるでマイケルが生きているかのように子供部屋を作ったか、どうやってカレンがベビーモニターを持ち、いつか(実際にはいない)息子が泣くのを楽しみに座っているか、などなど、すべてをデブリンに語った。息子が死に、カレンが精神異常の状態になって5か月が経過したが、こうやってこれらの事について他人に言ったのは初めての事だった。というのは、通常こういったことに影響を受ける(つまり、こういったことに対して真剣に考え、他人に相談したりする事)のは、父親ではなく母親であるからだ、

デブリンは、ご近所さんの事を知っているかと尋ねた。私は首を振った。すると、デブリンはチャリティーの為に古着を集め、また、中古品店を営むコンロンさんについて紹介してくれた。彼には子供がいない、そう教えてくれた。

---

その夜ほど、私たちのベッドで並んで寝ている(と考えている)、死んでしまった我が息子、マイケルの存在が現実のように思えたときはなかった。夜明け、私はキッチンの椅子に座りながら、デブリンが私にくれた、コンロンさんのチャリティーの緑色のチラシを見た。チラシを眺めながら、「デブリンはコンロンさんには子供がいないって言ったが、私は子供の泣き声を聞いたし、カレンの妄想ではない。あの家に子供がいる。誰かを探している。見つけれのを待っている。」そう考えた。

私はそのチラシにかかれた電話番号を頼りに、コンロンさんに電話をかけ、コンロンさんに古着を寄付する旨、今夜8時以降に引き取りに来てほしい旨を伝えた。その時、住所は私の家ではなく、コンロンさんの家から十分離れた

住所を告げた。これにより、30 分という十分な時間、コンロンさんをあの家から追い出しておくことができる。その隙に家の中を捜索しよう、そう考えていた。

7 時 40 分、コンロンさんの車が家を出発するのを見ると、私は彼の家の裏の壁を登った。彼の家は私の家と似ており、裏の窓のサッシの留め具が、銀行のカードでぐいっと動かせるくらいゆるくなっていた。その窓から私は侵入した。玄関まで這うようにして出ていき、耳を澄ましたが、何も聞こえず、家は空っぽのようだった。階段を上ると、正面にバスルームがあったが、おもちゃなど、子供の住んでいる形跡はまるでなかった。2 階には他に 2 部屋あったが、そこでも子供の気配は感じられなかった。もう一つ階段を上ると、屋根裏部屋があった。そこは、ガラクタであふれていた。私が帰ろうとすると、ゴツンという音が聞こえた。それは、食器棚からの音であった。私は近づき、扉を開けるのをためらったが、開けてみた。

子どもがいた。髪は黒く、大きな青い目を持ち、彼の口は茶色いテープで覆われていた。そのテープには、呼吸ができるように、切れ込みが入れられていた。そして、私の方を怖がりながら見上げていた。彼はおよそ、生後 4~5 か月ほどに見えた。彼は両手を私の方に差し出し、私が持ち上げてあげると、彼は握りこぶしを作った。

その時、下でドアがバタンとしまる音が聞こえた。コンロンが帰宅したのだ。私は、彼が階段をのぼりながら、(私に対する) 悪口を言っているのが聞こえた。私はかがんで隠れようとしたが、腕の中で子供が身をくねらせ、自由になろうとキックしてきた。そして、かすかに泣いた。すると、コンロンの足音が止まり、屋根裏部屋へと続く階段を上る足音が聞こえた。

「誰だ!」とコンロンは声を上げた。しかしその時、誰かが玄関のドアをたたく音が聞こえた。コンロンは数秒間動かなかったが、ついに玄関へと降りて行った。

私は、階下でなされているひそひそ声の会話を聞いていた。そして、誰かが階段を上ってくるのが聞こえた。声で誰だかわかった。デブリンだった。デブリンは屋根裏部屋のところにつくと、見もしないのに「何ともないよ」とコンロンに告げた。数分後、彼らが家を後にするのを聞いた。(そして、私はこの子供と共に家を出た。)

数週間後、日曜日のミサに家族で来ていた。(あの日) 以後、カレンは私たちが盗み得た子、マイケルの為にキャンドルをとすのを止めた。(おそらく、今まではミサで死んでしまったマイケルに対し、キャンドルをとましていた。) 協会の玄関のところで、デブリンに逢った。

デブリンはこう言った。「多分あなたたちが興味のある話を持ってきたんだ。1, 2 週間前、誰かがコンロンさんの家に忍び込むのを見たという情報が入ったんだよ。私たちがコンロンさんの家についたとき、チャリティーバッグから衣服にラベルを張っていたコンロンを逮捕したんだ。その時、彼が家に誰かがいると主張したんだよ。私たちがしばらくして戻ってくると、コンロンさんの家でたくさんの子供の出生証書を見つけたんだ。コンロンさんは違法な養子縁組(養子縁組して子供を貰うことで、莫大なお金を手に入れる)として、こっそり子供をアイルランドに持ち込んでいたんだ。全部で 5 人の子供を連れこんだらしいんだけど、4 人しか見つからなかったんだよ。」と。

私は、「彼(←事件に関係がなければ、いなくなった子の性別なんて分からないはずなのに…。ボロが出てしまった。)に何があったんでしょう・・・?」といった。そこでデブリンは、「彼を盗んだひとがコンロンや州(の保護施設)が育てるよりもずっとよく育ててくれることを望んでるよ。たぶん、彼はラッキーだね!」と言った。

カレンは私の腕に手を置き、「行かなきゃ」と言った。するとデブリンは、「(どうしていかなきゃいけないか) わかってるよ。(つまり、「私」とカレンが子供を盗んだことはお見通しであるという事)」といい、後ろをむいて、立ち去ろうとした。そして、「忘れるところだった」と言いながらもう一度私たちの方を振り返り、プラスチックバッグ

から小さなテディーベアを取りだした。「この子の名前は、マイケルでいいのかな？」そう尋ねると、カレンは「主人の名前を取って、ポールと言います」と言った。デブリンは乳母車に身をかがめ、テディーベアを置いた。それから、「あなた方が彼を奪ったんですね」と背筋を伸ばし、穏やかに笑いながら言った。そして空のプラスチックバッグをくしゃくしゃに丸め、コートのポケットに詰め、去って行った。

カレンはポールのブランケットを直しているとき、私はマイケルに祈りをささげた。「どうかマイケルが二度目の機会を得るのを嫌だと思いませんように」「どうか、ポールが私たちのそばにいる事にマイケルが憤りませんように」と。そして、私はマイケルに、マイケルがずっと、私の心の一部を所有していて、いつまでも私の心の一部はマイケルのものであり続けることを約束した。

それから私は、残りの家族と太陽の照りつける外へと踏み出した。

### (3.2 語句)

英語	日本語
confirm(55-6)	確かにする
involuntarily(55-8)	心ならずも
intensity(55-10)	強さ
strangle(55-11)	絞め殺す
yelp(55-11)	甲高い叫び
stumble to(55-12)	ぎこちなく動く
foot(55-12)	最下部
stagger(55-16)	よろめく
lower(55-17)	降ろす
bleary(55-18)	疲れ果てた
pleadingly(56-11)	訴えるように
dig out(56-14)	掘り出す
fluster(56-20)	面食らう
frequency(56-26)	周波数
worry(56-35)	啞えて引っ張る
static(56-39)	静電気
register(56-39)	示す
subside(56-39)	収まる
scream(57-2)	金切り声
be elated with(57-4)	得意になる
strain(57-9)	耳を澄ます
retreat(57-12)	退く
slam(57-13)	ボタンとしまる
by way of(57-23)	～の目的で
earshot(57-38)	声の届く範囲



disrespect(58-6)	軽蔑
fish(58-22)	探る
flier(58-23)	チラシ
pall(58-30)	幕
bent double(59-13)	深く曲げた
tread(59-17)	踏む
scum-strained(59-19)	水垢のついた
duvet(59-22)	羽ぶとん
spill(59-23)	こぼれていた
junk(59-24)	がらくた
cupboard(59-35)	食器棚
shudder(60-1)	揺れる
crouch(60-3)	かがむ
muffle(60-14)	声を殺す
momentarily(60-14)	すぐに
stolen(60-23)	盗み得た
certificate(60-31)	証書
smuggle(60-32)	こっそり持ち込む
adoption(60-33)	養子縁組
trace(60-36)	捜し出す
swallow(60-37)	喉をぐくりとさせる
a hell of a ... (60-39)	とても
pram(61-10)	乳母車
index finger(61-11)	人差し指
spoil(61-12)	奪う
the water font(61-17)	聖水盤
resent(61-19)	憤る

### (3.3 訳出しにくい箇所)

- ①(58-27) The phantom child slept in our bed, with us, alongside our dead son, Michael,~.

幻の子供が、私たちのベッドで、死んだ息子のマイケルと並んで寝た。

**コメント**：幻の子供→おそらく盗み得た子供「ポール」を指しているのでしょうか。もちろん、実際にこの場面に子供はいません。空想です。

- ②(58-33) No donation too small.

どんな寄付でもありがたく頂戴します。

**コメント**：直訳すれば、「小さすぎる寄付はない」。つまり、どんな寄付でも歓迎しますということ。

- ③(60-29) we arrested him labeling clothes from charity bags for his shop.

お母さんとお父さんで昨日、ちょっと大騒ぎしすぎちゃっただけだよ。

**コメント：**①と同じ。不成立な文章。

#### (4.1 概要)

(0)「私」は他人の痛みを代わりに感じる仕事をしている(以下、苦痛の代行業と呼ぶことにする)。時給 12 ドルと、効果のない痛みどめに対する償還(つまり、痛み止めを自費で購入し、会社からその分の還付を受けるという意味)を会社から受け取っている。物理的な痛みであったり、感情的な痛みであったり、とにかく思いつくあらゆる痛みを代行している。



ある日は 9 件の仕事が割り振られ、チケットを開くことで、痛みを感じ始める。私たちが行っているサービスは、決して安くはない。それゆえ、クライアントには金持ちが多く、マネージャーに言わせれば、これは社会的に高い方の職であるようだ。

現在、このサービスをする会社はハイデラバードやバンガロールにもある。だいたい三日ごとに、「新しいコールセンターが誕生しました！」という内容を新聞で見ると、各地に広がってきている仕事なのだ。

さて、棺が埋められるとき、私はいつものように巨大な足で踏みつけられているような息苦しさを感じた。この時感じる感覚は、オペレーターによって違う表現がされるのだ。かつて隣の小部屋にいたディーパックは、巨大な足ではなくひざで押さえつけられているように感じるらしいが、こういった感覚は実際、アメリカ人による、キリスト教の神の経験なのだという(巨大な足やひざはキリストのものであるという事ではないか?)。ちなみに、ディーパックは職場仲間が一番頭がよかった。

私は依頼された時間が終わるまでもう数分間その巨大な足に耐え、ちょうど自責の念や深い悲しみがとても大きくなり、セーフティーボタンを押そうかと考える頃、信じられないだろうし、私も以前は信じられなかったが、いつものように「安堵」がやってきた。

(1) この会社は、企業向けサービスから始まった。そして技術が進歩し、デリーの天才が、あらゆる経験を標準化し、分解するトランスファープロトコルを見つけた。そして、私たちのコマーシャルでは、「悪い日を過ごしていませんか?誰かにその悪い感情を代行してもらおう!」というセリフと、ストレスがたまったあるVIPが、仲介役に電話をかけるとその次の瞬間には、彼がビーチで横たわり、金のビールを飲みながら、本当に青い海をみている、こんな映像が含まれている。ランチカウンターでこのCMを見たとき、隣に座っていた女の子はお母さんに、あの青い液体は何?と聞いていた。実際に水が青いのを見た事がないなんて可哀相だと思っていたが、自分も39にもなって、いまだに実際に見たことがないことに気付いた。

このコマーシャルでは、私を含む、D棟の600人のオペレーターも出演していて、「悪い日を過ごしていない?私たちにその感情をください」と話すのだ。

私は、学校の成績はあまりよくはなかった。そして、ディーパックの方がもっとよくなく、工科大学も3学期までで中退してしまった。でも、彼は彼自身の成績の悪さから考えられるよりもっと良い人間なんだと私にいつも言ってきた。私はただうなずいてきたが、実際はそんなこと言ってほしくはなかった。というのは、この発言は私が人として低いところで働いていることを意味し、みじめさを感じていたからだ。

よく2人はランチを食べに行ったものだった。そこで彼はいつもこの仕事について説明しようとしてくれた。彼はOkay, soというのが口癖だった。これはエンジニアたちがしゃべっていたのをまねたものだった。

(2) クライアントは得意のセールスマンに電話をかけ、時間を予約する。そして予約された時間にクライアントに埋

め込まれたチップのスイッチが入り、意識が転送され始めるのだ。そして、サーバーで処理され、まとめられ、運ばれて私たちのサーバーにダウンロードされる。そして待ち行列管理システムへ降ろされ、個々人に分配されるのだ。わたしは、いつもディーパックが私に理解させようとしてくれるのをありがたく思っていたが、私は、苦痛の代行業はただ、私がこなすべき仕事であるだけだと割り切って考えていたため、どうしてディーパックがこんなにプログラマーたちのことを考えているのか理解できなかった。結局プログラマーもオペレーターもみんな被雇用者であり、プログラマーらはただこの仕事を科学のレベルまで下げているだけだ。

12 時間のシフトが終わるとちょうどへとへとになるように仕事内容が調節されている。多くの人、タバコで苦痛をそいでいるが、自分は 12 年前に禁煙したため、家に帰っても仕事のせいで震えていることがある。そういう時にはビールを飲んで気を静めるのだ。

次の日、仕事に行くと、私の向かいの小部屋に、ちょうど学校を卒業したてのような女性が座っていた。彼女の机には、新採用者のセットアップキットや、訓練ハンドブックが置かれていたことから、新人であることが分かる。返事をしようと思ったが、ばからしく思いやめた。

私の今日の最初の仕事は、死ぬ直前のベッドであった。こういう仕事は珍しい。寝ているのは生命維持装置が外されたおじいちゃんであった。彼は最後の力を振り絞って私の手を握った。そして、彼の手は弱々しくなり、腕は落ちた。私は本当に泣いた。おそらく、彼の腕の落ち方で泣いたのだろう。おそらく私が、＜おじいさんは手を握っている相手が孫でないことを悟り、何が起きているのかを知っても、起こっているようにさえ見えなかったこと＞を、いくらか知ったからであろう。

(3) 葬式、歯医者、失業、心臓発作など、「私」は様々な苦痛を代行している。中には、このような「苦痛」の代行業を良く思っていない人もいるが、「私」は問題視をしていない。将来、誰かが時間自身の売り方を思いついたとき、その人は「苦痛」の代行業がやっているように、インフォーマーシャルをするだろうと確信している。

ある日、私は 14 件の仕事を割り振られた。4 件は 30 分、残りは 1 時間の仕事である。私が自分の小部屋を離れるとき、誰かが嘆き叫び、怒っているのが聞こえた。それはディーパックに似ていた。彼はいつも限界まで仕事をするので、「少し考えないようにしなよ」と「私」は彼によく言ったものだ。

かつて、この仕事は最初から最後まで苦痛なものではなかった。予約された単位時間の中には、ただ退屈なだけで、どちらかと言えば良い時間も含まれていたのだ。しかし、技術の進化によって、このような余分な時間は取り除かれ、すべて纏められ、「いろいろな要素が詰め込まれた人生」として売られるようになった。

そうして、残った純粋な苦痛が、「私」たちが仕事で感じるものだ。この一連のシステム向上によって残された、「サプライズ」となりうることと言えば、(悪いことの真最中であっても) そんなに恐ろしくない物が混ざっていることぐらいだろう。葬儀中の安堵や、本当に信心深い人と出会って信条を得、他の感覚も試してみたいと思うようなことなどが例として挙げられる。

(4) 次の日もほとんど同じであった。11 枚のチケットが振り分けられていた。ランチの後、ホールで彼女とすれ違った。バッジにはキルティーとかかれていた。彼女は今回、私を見なかった。

帰宅途中に中古屋さんによると、誰かが、私が目をつけ、お金を貯めて買おうとしていた人生を買ってしまった。その人生は、ごくごく標準的なものであったが、以前試したことがあり、ちょうど合っていると思っていたものだった。

私は自分自身の人生について、残念だと感じないようにしている。ただ、もっとより良いものがあるだろうと考え

るだけで。しかし、それでも私は、他の人よりは自身の人生をより良いものにしてきた。そして、(他の人よりいい人生を持っている) 私は今、1日単位で自分の人生を貸しているのだ。まあ、まだ売ってはいないのだが。

私の父は30歳の時、人生を売った。それは私の4歳の誕生日の前の事だった。私は、銀行のような仲介業者に行ったのを覚えている。私自身は人生を売りたいわけではない。まだ準備なんてできていないのだ。だから、私は少しずつ、時間単位で人生を売っている。(解釈: おそらく、仕事柄1日12時間は他の人の人生を買っているようなものだから、私の比較的好い人生を時間単位で販売しているのだろう)。

私はホールで、また彼女とすれ違った。彼女は私を見なかった。この原因は、自分がハンサムでなかったり、背が高くないということではない。自分は本能的に無視してしまう素晴らしさを兼ね備えた人間だからだ。彼女が私を見ようとしないうえから、私は《彼女がく私が彼女を故意に見ようとしないうえを>知っているんだ》と分かった。何らかの理由で、初めて彼女との恋に希望が見えた！

(5) 技術の発達で、切り替えスイッチが設置された。緑に切り替えれば、クライアントが見ているものを見、感じていることを感じるが、赤に切り替えると、実際に自分が見ているものを見ながら、クライアントから感情だけが送られてくる。私は、大抵赤にセットしておくが、葬儀の依頼では緑にセットする。

今日の最初のチケットは、心臓病で亡くなった60代のお金持ちの葬儀で、クライアントは彼の子供の1人であった。クライアントは父親を嫌っており、自分からこの出来事を完全に抹消するために追加料金も支払った。葬儀の参列者は皆お金持ちそうで、彼の死を目の前にして、(誰でもいつかは死ぬということを忘れていたため) 裏切られたと感じているように見えた。自分の隣には、2人目の未亡人と思われる人がいた。アイコンタクトをかわし、しばらくすると、この人は同じ夜のシフトで働いているレジブであると分かった。(つまり、未亡人No.2もこの会社に仕事を依頼していたという事)。

様々な苦痛に対して、基本的な価格設定が示されているが、自分の子供の死については個別に取り決められる。というのは、ほとんどだれもこの苦痛に耐えられないのだ。子供の死を担当する者は、特別な訓練を受けなくてはならない。噂によれば、もしこの仕事をする、1か月の休暇を取れるらしい。実際、私がここにいる間にそのような仕事の依頼は来たことがないので、真偽は不明である。

(6) 私が初めてキルティと会話をしたのは、噴水のそばだった。2回目も同じ場所。2回目は、今後こういった出会いをやめなきゃね!、といったジョークを言った。すると、彼女は笑わなかったが、眉をひそめるようなこともしなかった。3回目はスナックルームの電子レンジのそば。私たちは話をし、キスもした。キスをしたとき、彼女は笑わなかっただけでなく嫌な顔もした。しかし、私を押しつけるようなことはしなかった。彼女はキスを受け入れたのだ。しかし、数秒後、離れて、「そんなことするもんじゃないわ」と告げられた。それでも、キスが出来ただけでハッピーだった。そのあともまだまだ仕事はあったが、表面上は泣いたり嘆き叫んだり歯ぎしりしたりしていても、その下ではにこにこ、にやにやしていたのだ。

キルティと私はデートを始めた。デートと呼んでいるのは私だけで、キルティはデートとは思っていなかった。私は彼女の後ろを歩き、腕を彼女の腰の周りに滑らせた。しかし、彼女はそうはさせてはくれなかった。「人の心を痛ませるのに247の方法があるけど、(悲痛のスペシャリストである) 私は全部感じてきたわ。」と彼女は告げた。

またある日、私はホスピスにいた。クライアントの自殺の場面だった。クライアントが(自殺する為に)薬(睡眠薬か?)を飲みこむと、安全装置が働き、システムが機能を停止し、私はチケットを閉じることができた。

(7) テクニカルサポートをしているスニルは、キルティの父親が抵当に入れられていることを教えてくれた。い

いわゆる p-zombie の状態である。「こうなるとひどい終わり方（父親との別れ）をすることになるんだ。キルティーは傷ついているよ」と彼は言っていた。彼は根はいい人だが、私がダメージを受けても大丈夫なことを知らない。私はダメージを欲しているのだ。私は考えた。「まったく愛さないよりは、愛し、そしてその愛を失う方がいいのではないか？」と。私は父と同じように、いいことを両方できる人間なんだ（←3.3 で説明）！

しかし、時がたつにつれ、スニルが正しいかなと思い始めた。私は彼に、「キルティーは私を入れようとしてくれないんだ・・・。私に離れて、っていうんだよ」と相談すると、「彼女はきっと君に頼みごとがあるんだよ。アドバイスしてあげなさい。」と言ってくれた。

そこで私は彼女のお父さんについて尋ねた。すると、1 週間彼女は口をきいてくれなかった。しかし、金曜の夜、彼女は父の今の状態について話してくれた。この時、私たちはいつもより近づいた。「どうして愛してくれないんだい？」と尋ねると、「誰かに何かを感じさせようなんて無理なのよ。それがたとえ自分自身であっても。（遠まわしに、「主人公の事を愛したくても愛せない」ということを言っている。つまり、無理やり上の訳に当てはめると、「私にあなたを愛させようとするなんて無理なことなのよ。たとえ私があなたを愛そうとしたって無理なんだから」くらいになる）」といった。

私は目をつけていた人生について彼女に話した。最初に目をつけていたものは誰かに買われてしまったが、ちょうど似たようなものを見つけたのだった。私たちに十分ではないが、交代でこの人生を生きてみないか？と彼は提案した。彼女は私を見た。そして、数秒それについて考え、頭の中でその人生全部を最後まで生きている（つまり、その人生がどうかを頭の中でイメージしている）ように見えた。そして何も言わずに、私の頭の横に触れた。恋の開始だった。

<ここから過去の回想>ディーブはハッピーな時、《<ある男を知っている>ある男を知っている》ある男をどのようにして知ったか、まるで本当に知っているかのように話してくれた。彼は、気が変になる 1 週間前、妻を殺したという有名な銀行家と打ち合わせをした MLS のある男性の話をしてくれたのだ。この銀行家は妻を殺害することを決心したが、罪悪感を感じたくはなかった。更に、彼は、記憶がなければ彼のアリバイを裏付けてくれると考えた。私は、うまくいくはずなんてないと思ったが、公共の場で話すときにはコードを使うなど、ばれないように手を尽くしていたことをディーブは教えてくれた。それでも、そんなの起こりえない、と私は言うと、残酷さには上限がないんだ、起こりうるよと彼は言った。

(8) (7) でディーブに銀行家について話してもらった次の月曜日、出社すると、2 人の医療補助者がディーブを外へと引っ張り出していた。私は、彼らを止めさせようと何か言いたかった。でも体が固まってしまい、言えなかった。彼らが私のそばを過ぎるとき、アイコンタクトをかわそうとしたが、（それが出来ず）私は部屋の中をのぞいた。誰も残っていなかった。彼はどこかへ行ってしまった。（気が変になったから）

次の日、新聞にディーブが話していた銀行家のことが新聞に出ていた。「銀行家がディーブを雇ったため、罪の意識にさいなまれながら生きていたんだ。」「彼は子供を殺したんだ」ディーブについて、そんなうわさも流れた。私は、どちらも正しくないと思った。ディーブは事件についてただ知っていただけだ。悲しみに上限は、世間体には下限はないのだ。<ここまでは過去の回想>

私は仕事をし、お金をためている。何週か経って、キルティーがほんの少しだが現れた。彼女はまだ、キスをするとき目を見ようとはしなかった。（それをとがめると、）目を見てキスするなんて奇妙よ、誰もしてないわ。と言われてしまった。でも映画などではキス中にこっそり目を開けて、相手を見るシーンがあったし、そうすることは道理にかなっているとも思った。さもないと、相手の気持ちなんてどうしたらわかるだろうか？

あるとき、彼女は父親を見せに私を連れて行ってくれた。彼の表情は見覚えがあった。そう、自分の父親も同じような表情をしていたのだ。彼は誰か別の人生を生きているのだ。だれかのフラストレーション、罪悪感、不幸を貯める、装置のようになっていたのだ。私たちは黙ってそこに立っていた。しばらくして、仕事に戻った。言いたくないことと言えば、「私たちはできる。彼を外に出してあげられるよ」という言葉だった。

ついに、彼女は耐えられなくなった。彼の抵当期間はたったの4年しか残っていない（つまり4年のうちに借金を返済しなければならない→そうしなければ、死んでしまう）、と彼女は教えてくれた。市場と同じように、私たち売り手は都合のいい時に100パーセントの価値を受け取ることなんてできないのだ。つまり、彼女の父親を出してあげるには、その4倍にあたる16年間私の人生を売らなくてはならないのだ。もし彼女が自分のことを愛しているのであればそうすることもできるが、まだ彼女の気持ちを聞いていない。

【解説：残り4年で父親を出しても、例えば最初の抵当期間が15年ならば、人生の11/15を売ってしまっているため、相当弱っているんじゃないでしょうか。だから、価格も下がる。質屋の例を挙げていますが、あんまり接点はない（n円で品を預けたら、その品を取り戻すときにはn円以上払い込むことが必要だという点で似ているけど・・・）わけです。】

(9) ことは進み、私たちはともに引っ越した。将来について計画するのは避けた。私たちは将来の話をそれとなくした。核心には触れずに話した。

<回想開始>私が13歳になった時、母は父について話してくれた。父は40年間自分の人生を売った。父が人生を売ったことで、家族には年間3パーセントの物価上昇率に連動した固定年間支払額4万ドル(約400万円…そんなに多くない気が…)が支給される。そして、彼が満期まで来ると、70パーセントの手当(何に対して7割かが不明確。4万ドルに対してなのかなあ)がもらえるのだ。40年たち、父が70になると、彼はまた私たちの元に戻ってくるのだ。(いま、主人公は39歳、4歳の誕生日前に父は30歳だったので、この時点ではまだ満期は来ていない)。父が帰ってくるまで、家族は面倒を見てもらえる。平穏な心を持てるのだ。「時は金なり、また金は時なり。自身の最も価値のある遺産から価値を創造しましょう！」と、人生売却勧誘ビデオでは紹介されていた。<回想終わり>

キルティーとのことは進まなくなり、むしろ後退し始めた。結局私たちが何を持っていたって、抵当期間が終了すればもう彼女の父は戻ってこないのだ。

彼女が引っ越していった1週間すると、彼女の父親は他界した。私のシフトマネージャーは葬式の為に休ませようとしな。キルティーも、私が葬儀に参列したいかどうかさえ聞いてはくれない。行かなくちゃ！でも葬式に行ったら会社を休んだら、解雇されてしまう。

(10) でも、葬儀に行かなければもう彼女とは付き合えないだろうし、葬儀に行ったら会社を辞めさせられても、職がなければ彼女を取り戻すことなんてできないだろう。もうどうすることもできないのだ。私は、自分が彼女に戻ってきてほしいのかさえもわからなくなってしまった。でも、おそらくこんな風にこんなに大事なことが分からなくなってしまったから、私は今、彼女と一緒にはいないし、決して一緒にはいられないし、今後も一緒にいられることはないだろう。おそらく、問題は私には人生がない(仕事柄他の人生を生きているようなもの) ことにあるのではなく、私が人生を欲していないことにあるのだろう。

仕事が終わって、アパートに帰ると中はすっからかんのよう思えた。それはいつものことだが、いつも以上にそう見えるのだ。(この辺でタイトルの **Standard Loneliness Package** の意味が分かってくる。つまり、彼の人生は他の人の苦痛で占められていたり、父親が人生を売っていたり、彼女がいなくなってしまう。スタンダードで空

虚な人生を送っているのだ)。私はキルティに電話する。何を言ってもいいかわからないから、電話に向かって呼吸する。また電話をする。今度はメッセージを残した。「宣伝部に知り合いの男がいるんだ。誰も知らないけど、まだ苦痛の受け入れ枠に余裕があるんだ。君の深い悲しみ、僕が代わりに感じてあげるよ。僕が君のお父さんを埋葬してあげるから」と。

この人生が、私が生きうる唯一の人生だが、私はこの代理の人生に飽きてしまった。元々は存在しなかった何かの代わりの人生に。

3日後、仕事に行くと、葬儀サービスの時間の書かれたメモがデスクの上におかれていた。ただ時間だけ。そしてその下には、キルティの「Okay」という殴り書きがあった。私は1時間手配し、その時になったらチケットを開けた。葬儀だと思っていたが、葬儀なんかではなかった。どこにいるのかはわからなかった。彼女は、おそらく誰にも見つけられないような場所に引っ越していた。彼女はこのサービスの為に、彼女自身がお金を払った。このお金は、彼女の父親を抵当から出すために貯めていたものだった。1回だけ、ただ1回だけ彼女は私を受け入れたかったのだ。

彼女は道沿いを歩いている。彼女は私たちが撮った写真を見ている。これは、私たちがドラッグストアのフォトブースで撮った唯一の写真だ。私たちの顔は粉々になっていた。そして写真の中で、彼女はいつものことだが笑っていなかった。私は笑っていた。正真正銘本物の笑顔だ、そのようにいつも私は思ってきた。しかし、今彼女の目から私自身の笑顔を見ると、その笑顔が言葉のゲシュタルト崩壊のように分解し始めているように見えていると分かった。

私は今、彼女の頭の中にいる。主人公の事をいい人だと彼女は考えている。主人公に価値がもっとあると、彼女は信じたく思っている。でも、彼女はそう信じただけで、信じてはいないことが分かった。もし彼女も私の目から彼女自身を見れたらなあ、そう思った。「私」は愛されるに値すると彼女は考えているが、信じてはいない。彼女の代わりに信じてあげられたら・・・と思った。

彼女は丘に登っている。彼女の一步一步に、彼女の悲しみをを感じる。ちょうど丘の頂上に着くころ、かすかなある気配を感じた。彼女が笑っている気配だ。彼女は私たちがすごした楽しい時間を思い出しているのだ。

私は丘の上に立っている。葬儀に参列しているのではない。わたしは、かつて愛した人のことを考えている。私は、私のことを考えている彼女なのか、それとも彼女のことを考えている自分なのか、それとも、その両者に違いがないのか、わからない。

## (4.2 語句)

英語	日本語
give or take(143-1)	多少の増減を伴って
reimbursement(143-5)	償還
you name it(143-6)	思いつくものなんでも
detect(143-17)	～と知る
in terms of(143-26)	～の点から
relief(144-43)	安堵
sibling(145-1)	兄弟
plausible(145-8)	もっともらしい
retire to(145-6)	～に引き下がる



philanthropy(145-6)	慈善事業
figure out(145-12)	～を理解する、見つける
temple(145-16)	こめかみ
indicate(145-18)	～をほのめかす
place a call(145-18)	電話を掛ける
crumminess(145-43)	みじめさ
book(146-4)	予約する
kick on(146-15)	入る
lay out(147-1)	広げる
limp(147-14)	弱々しく
effing(147-29)	ひどい
cope with(148-3)	～に対処する、～に耐える
edge(148-9)	限界
let go(148-10)	考えないようにする
refine(148-27)	能率化する
have one's eye on(148-32)	～を欲しいと思っている
undiluted(148-35)	薄められていない、純粋な
adultery(149-6)	不倫の
top of the line(149-15)	トップブランド
life expectancy(149-19)	期待寿命
flip(150-17)	切り替える
amnesia(150-32)	記憶喪失
in the bag(150-35)	成功間違いない
eligible(151-15)	資格のある
frown(151-29)	まゆをひそめる、しかめっ面をする
heartbreak(152-9)	悲嘆の
mortgage(152-42)	抵当に入れる
crap(153-9)	質の悪い、くず
decent(153-29)	まずまずの
crack up(153-41)	気が変になる
prominent(153-43)	目立つ、有名な
bullshit(154-4)	馬鹿げている
decency(154-26)	世間体、体裁
make sense(154-37)	道理にかなう
withdrawal(155-3)	退社、引退
vessel(155-7)	容器
pawnshop(155-20)	質屋

hock(155-20)	質に入れる
selfless(155-26)	無欲の
annuity(156-8)	年間支払額
index(156-8)	～に連動する
asset(156-22)	遺産
billing(157-14)	宣伝、広報
substitute(157-17)	代理の
decompose(157-40)	分解する

**<語句:練習問題>解答は(3.4)参照**

**Fill in the blanks. (Use the words below. If necessary, you can change the forms of words.)**

- (1 :143-17) I ( ) that there is some guilt in there.  
 (2 :143-26) Need I remind you of where we are on the spectrum in ( ) ( ) low-end/high-end?.  
 (3 :145-03) Death of a ( ) is twelve-fifty.  
 (4 :145-12) Some genius in Delhi ( ) ( ) a transfer protocol.  
 (5 :145-18) Wavy lines on either side of his temples ( ) that the executive is really stressed.  
 (6 :146-04) They call into their account raps and ( ) the time.  
 (7 :146-15) A switch ( ) ( ).  
 (8 :148-03) I am ( ) ( ) something vague.  
 (9 :148-32) I have ( ) my ( ) ( ) one for a while.  
 (10:150-32) The client paid extra for ( ) after the event.  
 (11:151-15) We have to be specially trained to be ( ) ( ) those tickets.  
 (12:153-43) A guy made arrangements with a ( ) banker.  
 (13:154-37) I think it ( ) ( ).  
 (14:157-17) I am tired of this ( ) life.

*of on cope detect substitute amnesia prominent kick for book out sibling eye on indicate eligible terms figure with  
have at against decompose*

**Translate into Japanese.**

- (15) I feel pain for money. Other people's pain. Physical, emotional, you name it.  
 (16) He used a plausible excuse.

**Translate into English.**

- (17) この人生の期待寿命は、80 年です。

### (4.3 訳出しにくい箇所)

①(143-1) Root canal is one fifty.

歯の根管治療（の痛み）は 150 ドルである。

**コメント**：記念すべき 1 文目。この作者の特徴として、お金をいう時、2 桁ずつ分けて言っている。

②(150-27) Funerals, I like to be there, just out of some kind of respect things.

葬儀、私はただある種の敬意から、その場にいるのが好きだ。

**コメント**：訳してみれば、あんまり面白みのない文ですが、things が含まれていることでちょっと戸惑ってしまいました。

③(151-27) I try to make a joke, one of those we have to stop meeting like this things.

私は、「今後こういう出合いを止めなきゃね」というような冗談を言おうとした。

**コメント**：この文章、ちょっと特殊な形をしています。分かりやすく変形すれば、

I try to make a joke, one of those we have to stop meeting like this.

となります。ちなみに、this は偶然を装って密会することです。

④(151-32) one hundred and fifty-five pounds

155 ポンド。

**コメント**：こんなの載せる必要あるのか？って思いがちですが、過去問を見ると 15 フィートは何メートルですか？っていう問題が出題されていました。155 ポンドは、約 70.37 キログラム

⑤(152-42) A p-zombie.

哲学的ゾンビ。

**コメント**：（定義）物理的・化学的・電氣的反応としては、普通の人間と全く同じであるが、意識（クオリア）を全く持っていない人間（出典:Wikipedia）。

### (4.4 語句：練習問題について)

単語補充問題は、本文の該当箇所を見れば答えが分かる。ここでは、和訳・英訳問題の解答を示す。

#### 和訳問題解答例

(15) 私たちは、お金の為に痛みを感じているのだ。他者の痛みを。その痛みは、物理的なものだったり、感情的なものだったり、（とにかく）思いつくあらゆる痛みである。

(16) 彼は、もっともらしい言い訳を使った。

#### 英訳問題解答例

(17) The life expectancy of this life is eighty years.

## TIPS FOR YOU

### テスト傾向・分析

Utaisaku-web に、芦田川先生の過去問(2009 夏・*The Pinhoe Egg* を読む)がありました。  
範囲も違うし、1 回分しかないので参考になるか不明ですが、一応紹介しておきます。

2009 年度 夏学期 試験内容・考察			
I	授業で扱われた英文を読み、日本語で解答する問題		
	A	小問が 7 つ。和訳が 3 題、その他説明問題が 4 題（すべて記述式） 和訳はおそらく、プリントで扱われたイディオムや単語が含まれている文から出ている。説明問題は、しっかり内容をおさえてい れば解答できそう。比較的オーソドックス。	・語注付き ・23 点満点
	B	小問が 8 つ。和訳系が 3 題、イディオムの空欄補充が 1 題、オー ソドックスな内容説明問題が 1 題、 <i>this thought</i> の内容を答えさせ る問題 1 題、その他、「この文にはどんな含みがあるか?」「この 部分はどんな視点から描かれているか?」という読解力を見るよ うな問題が 2 題出題されている。	・語注付き ・23 点満点
	C	小問は 9 つ。和訳は 2 題、 <i>fifteen feet</i> が何メートルにあたるかを答 えさせる問題が 1 題、内容説明問題が 3 題、その他、「いくつかの 単語が斜体になっている理由を書く問題」「途中で切れた会話文の 続きを想像して英語で書く問題」「登場人物のしゃべり方の特徴を まとめる問題」が出題されている。この太字で書いた問題は、出 題される気がする。	・語注付き ・23 点満点 ・文章は ABCD の中で 最長
	D	小問は 3 つ。和訳が 1 題、内容説明問題が 2 題。扱われている文 章も短く、対策をしていれば解答に困ることはあまりなさそう。	・11 点満点
II	英語で <i>The Pinhoe Egg</i> の長所と短所を答える問題		
	そもそも <i>The Pinhoe Egg</i> って何? って感じなので何とも言いづらい んですが、明らかに物語の内容を覚えていない限り対処不能な問題。こ ういう問題が出てもいいように、すべての小説のあらすじは覚えてお くべきでしょう。		・10 点満点 ・英文なし ・問題文は英語
III	英語 or 日本語で、あるトピックについて議論する問題		
	(1)～(4)までである選択肢の中から 1 つのトピックを選択し、英語か日本 語でそれについて議論する問題。ちなみに、選択肢のトピックは (1)登場人物の個性・役割・働き (2)dwimmer の世界と魔法の世界の対比 (3)卵の重要性・働き (4) I の A～D で扱われた文章から 1 つ以上選び、その文章における物 語の状況についてコメント		・10 点満点 ・問題文は英語

	となっている。これもⅡと同様物語の内容を覚えていないと難しいと思われる。	
--	--------------------------------------	--

授業でそんなに精読を意識していないような気がする割には、和訳の問題が多い気がする。一応、ガイダンスの資料を読み返してみると、

- ・目標：英文の細部に気を配る力と、文脈に沿って解釈する力を身につけるため、近現代の短編小説を丁寧に読む。

なんて書いてあります。やっぱり細かく読むべきなのかなあ？

実際の問題について気になる人がいたら、一度問題を見てみることをお勧めします。

<http://todai.info/sikepuri/search/show.php?id=451>